

第87回 ISO/TMB (技術管理評議会) 結果報告

経済産業省 国際標準課

基準認証専門官

猿橋 淳子

令和5年7月18日



作成課	国際標準課
性質/作成日付	機密性1、令和5年7月18日
保存期間	1年
備考	未定稿

今回のTMBに関して

皆様には、いつも標準化活動にご協力いただきありがとうございます。

- 今回のTMB会合は、ジュネーブにおいて対面で開催されました。
- だんだん対面の会議（ハイブリッドも含め）が増えてきており、新旧のネットワークの確立にもつながっているようです。
- SMB/TMB合同で作成した会議開催のガイダンス（欄外URL参照）をご活用いただき、引き続き安心・安全な状態での規格開発にご対応いただけるようお願い申し上げます。
- なお、時差の問題に関してはなくなることがありません。もし、何か困難な事象等が発生しましたら、ご連絡いただければ幸いです。

本資料は決議を要約していますので、正式なものは和訳版のついた英語版でご確認ください。

TMBの任務と議長・メンバー・事務局の紹介（1）

●任務

●ISO規格作成に関する管理事務的事項

✓TC/SC/PCの設置・廃止、議長任命、幹事国割当、ISO/IEC
専門業務指針の改訂等

●ISO規格作成に関する戦略的事項

✓規格開発の効率化・迅速化、TC/SC戦略ビジネスプランの審
議・承認、TC/SC活動の調整・モニタリング等

TMBの任務と議長・メンバー・事務局の紹介（2）

● メンバー（出席者）

- TMB議長: Mr Javier GARCIA（西）
- TMBメンバー(15名) : Mr. Steven Cornish (米), Ms. Amanda Richardson (英), Ms. Petra Scharf (独), Mr. Franck Lebeugle (仏), Ms. Atsuko Saruhashi (日), Ms. Karen Batt (豪), Mr. Marcel Knecht (スイス), Ms. Merete Holmen Murvold (ノルウェー), Mr. Jorge Cazajiera (伯), Mr. Bruce Farquhar (加), Mr. Chandan Bahl (印), Mr. Cristian Vazquez (亜), Mr. Hussalmizzar Hussain (馬), Mr. Young Jun Moon (韓), Ms. Yubing Li (中)
- ISO中央事務局 :
Mr. Marco Rossi (部門長), Mr. Antoine Morin TMB事務局長ほか
- オブザーバー : Mr. Vimal Mahendru (SMB議長), Mr. Gilles Thonet (SMB事務局長)

<決議要約>

Approval of the draft TMB 2024 Work Programme

- TMB 2024年業務計画案を承認。

<背 景>

- **TMB 戦略概要：今後 4 年、TMB によって管理されるプロジェクト。**

前回からの戦略概要の主な変更点は以下のとおり；

- ・ TMBおよびSMBへ、ジェンダー対応規格（GRS）導入の提案（2024年）。
- ・ SMART規格は、デジタル化に向けたロードマップ実行（2024年）。
- ・ SAG ESGプロジェクトはESGCCプロジェクトへ変更。

- **TMB 2024 作業計画草案の承認に向けて**

1. TMB事務局は、6月のTMB 会議後に第1案を上層委員会に提出。
2. ISO/CS 幹部は、組織全体での一貫性と調整を確保するために、全作業計画案を確認（7月）。
3. 作業計画案は承認を得るために議長に提出。
4. 会長委員会および理事会により 2023 年 9 月で見直す。

<審議内容> 議題3.1

- 記載の足りないものを加筆。
- TMB会議前後でワークショップ（WS）を開催しても、そのフォローアップが必要。
- 9月のWSなどの実施に向けた議論が必要。特に、議題の深掘りが必要かどうか要検討。

【 決議 44/2023 】 新業務についてのガイダンス – 更新

<決議要約>

Guidance on new work - update

- 将来に向けた新しい業務（活動）をレビューするための、TMB と理事会の合同プロセス（標準化ロードマップ）を見直し、ISOオープンコンサルテーションプロジェクトとすることにした。
- これに伴い、理事会決議の新業務領域の導入プロセス（注 SAGを提案できる仕組み）を廃止。

<背 景>

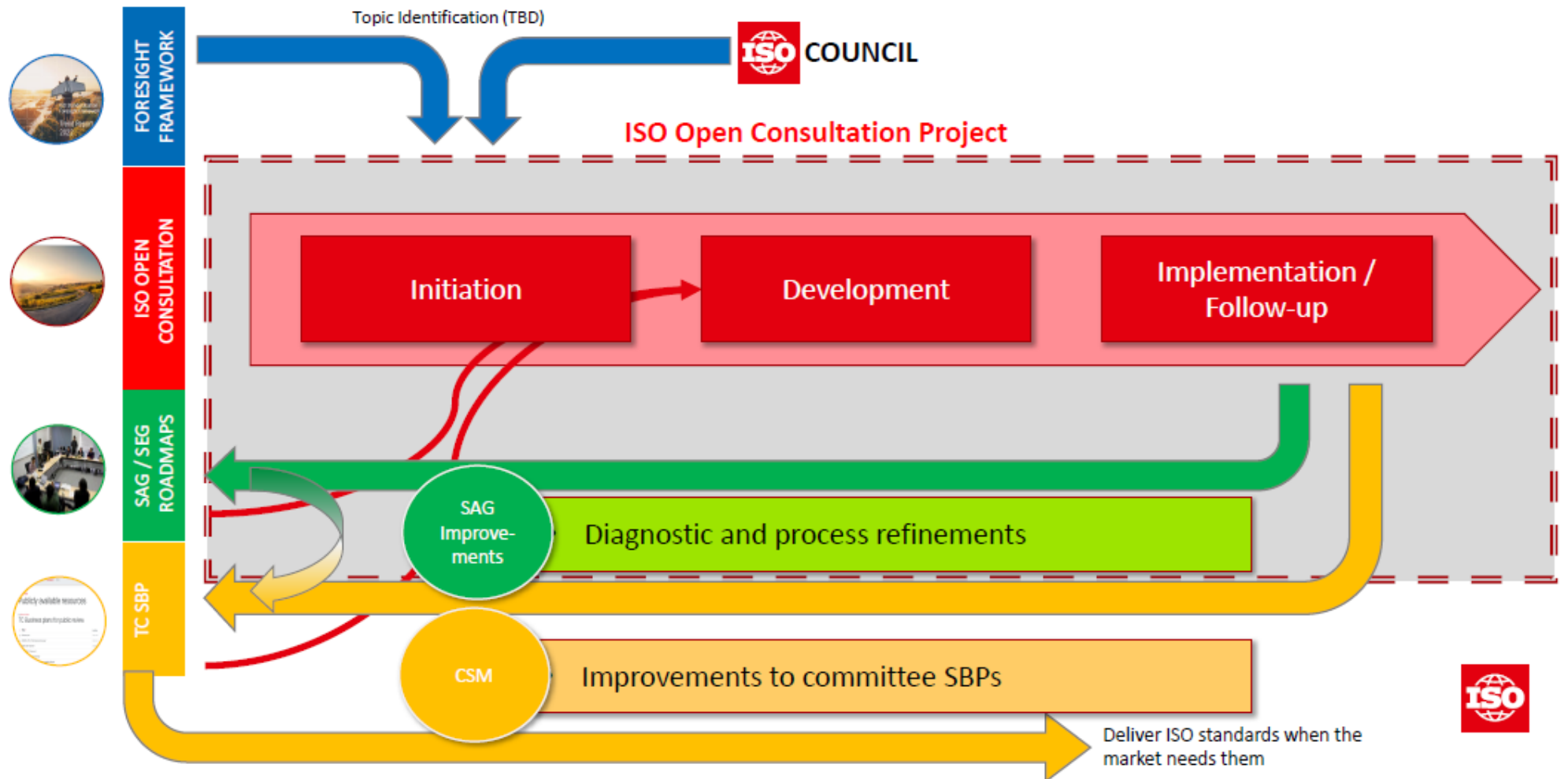
標準化ロードマップの実施に向けて、昨年8月以降理事会メンバー、TMBメンバーで議論を続けたものの進捗がなく（具体性がないなど）、事務局による見直しが行われた結果、新しく事務局の提案するISO オープンコンサルテーションのプロジェクトを検討することとなった。

<審議内容> 議題 4.3

- ・ トップダウンアプローチのツールの一つ。NSBから！ではない新しいプロセス（次ページ）。
- ・ NSBからの外部へのリーチアウトが少ない。新分野開拓のための新しいOverallツール。
- ・ Foresightから案件（アイデアやテーマ）が到達、外部も含めて議論開始。ISOとして本当に意義があるのか議論（Meat in the bone）し、必要な組織が設置され勧告を作成。
- ・ 詳細は検討中であるため、実際の実行時間などは未定。
- ・ IEC/MSBやSMB/SG11（Hot topic radar）とは連携を継続。SMB事務局からも情報提供する旨回答あり。

ISO オープンコンサルテーション プロジェクト

- 理事会とも連携した、新しいプロジェクト醸成のプロセス



【決議 45/2023】 L.D. アイカー賞受賞者による 委員会ネットワークの設置

＜決議要約＞

Establishing a Committee Network led by the L.D. Eicher Award winners

- これまでのL.D. アイカー賞受賞者によって行われてきたベスト プラクティスを共有するための委員会ネットワークを設置する。
- 提案されている運営グループに対し、委託事項をさらに発展させ委員会ネットワークの運営方法の定義の作成を依頼。その後、暫定的に委員会ネットワークの設置する。
- 今後のTMB 会議で運営グループの活動に関する最新情報を提供することを求める。

＜背景＞

2022年に本賞を受賞したISO/TC 283（労働安全衛生マネジメント）が、委員会間のネットワーク構築を提唱。特に本賞受賞者の経験や成功事例の共有を促進することで、Lawrence D. Eicher賞の影響力を高めることを合わせて提案。

＜審議内容＞ 議題 4.5

- 受賞者チームで作る運営グループが委託事項を議論する。
- LDE受賞者が全員この運営グループのメンバーになる必要はない（義務ではないこと）ことを確認したい。受賞することが負担にならないようなことが必要。
- 活動自体は有益。一方、対面・オンラインなど、参加者の負担にならないことが必要。
- 過去の議長会議は、CSリードだったため継続されなかったことを考え、参加者自らの活動として提唱。

【 決議 46/2023 】 リビングラボ フェーズ2 － 委員会革新プロジェクトの廃止

<決議要約>

Disbandment of Living Lab Phase 2 – Committee Innovations

- リビングラボ フェーズ2 – 委員会革新プロジェクトの廃止を決定。
- 本プロジェクトは、TCSCが行っている革新的なプロジェクトを共有することを目標としたが、プロジェクト自体は廃止されても、革新プロジェクトやベストプラクティスを共有することを推奨。

<背 景>

リビングラボの第二フェーズのプロジェクトであった - Committee Innovations（TCSCによる革新的なプロジェクトの共有）は、委員会間で新しい動きやプロジェクトの経験などを共有することで、委員会間のネットワークが構築され、刺激になり新しい活動が発生するのではないかと期待された。

しかしながら、このプロジェクトは何年も活動しておらず、今回のアイカー賞受賞者による委員会間のネットワークの構築により、成功事例等を共有できるようにすることで、本プロジェクトの目的が達成されるということで、本プロジェクトを合わせて廃止することが提案された。

なお、ISO戦略2030に基づき、TCSCは技術革新に取り組んでおり、TCSCはいつでも、国内メンバーまたはISO/CSを通じて、TMBと革新的なアイデアを共有することができる。

<審議内容> 議題 4.5

- 活動していないのであれば、委員会間のネットワーク構築により、廃止することは問題なし。

【 決議 47/2023 】 サプライチェーンと物流分野の一貫性に関する

TMBタスクフォース – ギャップ分析と革新的物流に関する新TC設置

TMB Task Force on the coherence in the field of supply chain and logistics – gap analysis and establishment of new TC on Innovative logistics

<決議要約>

- TS/P 304「物流におけるスマート流通」として提出された提案に対して、新TC設立を承認。
- 新たなTCの名称を「革新的物流(TC 334)」として、SAC（中国）に国際幹事を割当。
- サプライチェーンと物流分野の一貫性に関するTMBタスクフォースを解散。

<背 景>

2022年に、中国からスマート物流に関するTC設置や、海外倉庫に関するPC設置が提案されたが、2つの提案にも重複があり、さらに物流とサプライチェーンなど、今後重複が増えてくるであろう分野であることから、2022年9月に設置されたTFにおいて「2つの提案に関する重複の整理や協調に関する議論を実施。また、最後にTC 204（ITS）から決議延期の依頼があり、それも合わせて議論。

<審議内容> 議題 5.1.1

TC 204以外のTFメンバーのTCSCからは新TC設置に関して懸念表明はなく、中国の2提案は一つにまとめた形。「SMART」が指す、IT要素を除外し先進的なロジスティックスということで、Innovative。

- TFのメンバーであったにも関わらず、TC 204の意見出しは遅過ぎるし、既に時間をかけた結果なので、これ以上延ばすのは外部への影響も大きい。
- SMARTとつくつと、ITものを扱うことに主眼が置かれてしまうが、今回の提案はそれ以外も含むため、やむなく、Innovativeがいいのではないかとされており、タイトルの変更は不可。

【 決議 48/2023 】 重要鉱物に関する戦略諮問グループ (SAG) 報告

<決議要約>

Report of the Strategic Advisory Group (SAG) on Critical Minerals

- 重要鉱物に関する SAG (CRMI) の最終報告書が完成。報告書に記載されている7つの推奨事項を受け入れるとともに、ISO 重要鉱物調整委員会 (CMCC) を設置。
- これに伴い、重要鉱物に関する SAG (CRMI) を解散。

<背 景>

重要鉱物関連のTC（TC298レアアース、TC333リチウム等）が調整なく設立されている現状に対する懸念を背景に、豪州提案により2021年6月に SAG Critical Mineralsが設立され、今回はその報告。

一方、SAGの報告前に、2023年2月に仏がTCを、3月に独がPCを提案。本SAGは、そもそも重要鉱物TCの乱立を防ぐことも目的の一つ。仏及び独がSAGの報告前に新組織提案したことへの懸念表明あり。

<審議内容> 議題 5.2.1

- 勧告をそれぞれ記載せず、報告書にのみ記載（筆者注 そのため決議だけ読んでも一部意味が不明）。専門家としての提案であり報告であることを、TMBは認識すべき（TMBは非専門家）。
- 現時点の最新技術で規格を作ってもその後のことを考え、Critical MineralsのCC（Coordination Committee）を設置することで、最新技術に基づいた情報の共有を期待。
- ISOには付加価値をつけた活動であり、業務重複の排除を期待。市場ニーズに基づいた活動が必須。
- SAGの報告書を待たずに新組織提案することに対して、止めるべき、ルールがないなどが議論。
- Coherence TFが、SAGの原則と、仏独の提案の結果を合わせて議論する。

【 決議 49/2023 】 リスク及び関連用語の概念に関する ISO/IEC 合同タスクフォースの最終報告書と推奨事項

＜決議要約＞

Final report and recommendations of the ISO/IEC Joint task force on the concept of risk and associated terms

- リスク及び関連用語の概念に関する ISO/IEC 合同タスクフォースの最終報告書に、2つの推奨事項が示された。

推奨事項 1 : リスクの定義

推奨事項 2 : ISO 補足指針の附属書 (SL 及び SP) の改訂) 。

＜背 景＞

- リスクと関連する概念の定義、使用、解釈のばらつきがISO/IECにあることについて検討するため、TMB決議81/2021において、リスクと関連用語に関するJTFが設置された。
- JTFの目的は、どのようにすればリスクの概念と関連する用語を規格利用者のニーズ合わせて進化させることができるか調査することである。2022年2月から2023年4月までに6回の会合を開催し、3つの推奨事項案のうちの2つをTMB/SMBに提出し意見を求めた。

＜審議内容＞ 議題 5.3.1

- 100人もの専門家をまとめたことに感謝。
- Riskに関して、電気電子の世界に関する用語をリスペクトすること。

【 決議 50/2023 】 包摂的用語に関する ISO/IEC 合同諮問グループの任務の延長

Extension of the mandate of the ISO/IEC Joint Advisory Group on Inclusive terminology

<決議要約>

- 包摂的用語に関する JAG の任務を、推奨事項を含む最終報告書を提出する 2024 年 6 月まで延長することを承認。

<背 景>

ISO/IEC 専門業務用指針第2部（Directives Part2）に記載されている包括的用語の実装に向けた活動がメンバー決定までに時間を要したことにより、最終報告完成までの期間延長が要求された。

8.6 包括的な用語

可能な限り、技術的な能力及び関係を表現するために包括的な用語を使用しなければならない。無神経で古めかしく非包括的な用語は避けなければならない。この原則において、“包括的な用語”は、性別、人種、肌の色、宗教などに関係なく、すべての人々が歓迎すると考えられる又はその可能性がある用語を意味する。

<審議内容> 議題 5.3.2

- メンバー決定が2022年末であったことを踏まえ、特に議論なく承認。

【決議 51/2023】スマートファーマーミング調整委員会（SFCC）の コンビーナの承認

＜決議要約＞

Approval of Convenor for the Smart Farming Coordinating Committee (SFCC)

- Jim Wilson をスマートファーマーミング調整委員会（SFCC）のコンビーナとして2年間任命する旨承認。

＜背 景＞

スマートファーマーミング（SF）におけるISOの活動を促進するために、いくつかの計画があり、その1つに「スマートファーマーミング調整委員会(SFCC)」があり、TMB決議17/2023により以下の通りメンバー構成が規定。

- SFに関連するISO委員会の議長、幹事、または任命された代表者
- コンビーナ：SFCCメンバーの中から定期的に交代
- 事務局：ISO中央事務局職員

今回、上記に基づきコンビーナ案が提示され、TMBに選定が任された。

＜審議内容＞ 議題 5.4.1

- 人となりかわからないので教えてほしい。SAGにいた専門家を推奨。
- 共同議長でもいいのでは？
- 非専門家のTMBが決定するのではなく、CCで決定すべき。（最終的にTMBで無記名投票）
- IEC/ITU representativeを入れることを推奨。

【 決議 52/2023 】 ISO/TC 22 自動車 の業務範囲の変更

<決議要約>

Modification of the scope of ISO/TC 22 Road vehicles

- ISO/TC 22 の業務範囲を以下のとおり、承認：
 - － 業務範囲：安全性，セキュリティ，持続可能性，互換性，交換可能性，メンテナンス，性能及び品質の評価に関するライフサイクル全体にわたって，公道での走行が承認されたあらゆる種類の道路車両とそのインターフェースのあらゆる側面の標準化。
 - － これには，次の車両関連の側面も含まれるが，これらに限定されない：
 - － ハードウェア及びソフトウェア；
 - － 自動運転；
 - － コミュニケーション及びコネクテッドドライビング；
 - － 試験用機器及び用具

<背 景>

自動車及び自動車技術の最新/将来動向を反映したものとすることを目的に、2021年9月より改定が検討されていた。実質的な業務範囲の拡大は行わないもの。

一方、2022年2月TMB通信投票において、ISO/TC269（鉄道）から、「public roads」にはトラム等、TC269及びIEC/TC9（鉄道システム）の業務範囲との重複の懸念が表明され、決議延期。ISO/TC22と、ISO/TC269やIEC/TC9と議論が行われ、決議のとおり。

<審議内容> 議題 6.2.1

- TC 204とTC 22でも似たような議論がある。
- 対応に感謝

【 決議 53/2023 】 ISO/TC 117 工業用送風機 の業務範囲の変更

＜決議要約＞

Modification of the scope of ISO/TC 117 Fans

- ISO/TC 117, IEC/TC 59, 及び IEC/TC 61 のリーダーシップからのフィードバックに留意し,
- 以下のように変更されたISO/TC 117の業務範囲を承認：
 - － 業務範囲：工業用送風機分野の標準化。
 - － 除外事項：IEC/TC 59 及び IEC/TC 61 の業務範囲内の家庭用及び同様の目的用の電動送風機又は送風機ベースの電気製品

＜背 景＞

リエゾンではないIEC/TCの業務範囲が、改定を加えた業務範囲と重複している可能性を指摘した案件。

現行スコープの表現“for industrial purposes(産業用目的)”を用いずに、ISO/TC117の活動範囲を改めて規定しているが、家庭用機器を除外するために、IEC/TC59(家庭用機器の性能)でカバーされる範囲を、125Wの数値を用いて除外している。一方、家庭用機器分野では、IEC/TC61(家庭用機器の安全)が存在し、IEC/TC61所管のIEC 60335-2-80(家庭用及びこれに類する電気機器の安全性－ 第2-80部：ファンの個別要求事項)のスコープでは、125Wの数値で定義づけを行っていない。

TC 117が、両TCと議論し、最終案をTMBに提示。

＜審議内容＞ 議題 6.2.2

- 3 者が納得するよう提案者から議論をもちかけており、事務局含め、対応に感謝。

【 決議 54/2023 】 ISO/TC 11 ボイラ及び圧力容器 の再開

<決議要約>

Reactivation of ISO/TC 11 Boilers and pressure vessels

- ISO/TC 11 ボイラ及び圧力容器 の再開に関する決定を現時点では延期することを決定
- ISO/TC 11 の再開の必要性を判断し、取り組みのレベルを評価するためにMB投票を開始する。

<背 景>

現在、休止中（Stand by）となっているTC 11の議長（及び国際幹事（SAC））が国際貿易の促進、ボイラ及び圧力容器の安全性と品質の向上、ISO戦略2030・ロンドン宣言・ネットゼロガイドラインの必要性に応えるため活動再開を要望。投票結果は、反対と決議延期あり。実行内容が不明瞭など。

<審議内容> 議題 6.2.3

- 暫定的に立ち上げ、P-membersが5カ国いるか確認をしてもよいのではないか。
- 議長の要望のみであり、説明に説得力がない。Pメンバーの希望が不明であり、市場ニーズがあるのか、開発をしたいという意見があるのか、ということを確認すべき。2020年に、10 P-members に専門家募集したが、希望なし。
- 提案国のリサーチや企業からの意見、議長ほかと議論し、国際市場性や要望あり。ISO16528改定希望やマーケットニーズ、FS、問題を確認し、2023年にセミナーを行った結果が前向き。国内24企業及び、日・独企業も参加を希望。（日独より、企業名の公開を希望したが不明）
- 定期見直しの結果がCONFIRMであれば不要の可能性が高い。
- 休止TCの復活に関して、MBへの確認は必要であるところ、Directives上、国際幹事がの要求のみ。現Pメンバー24カ国だけの確認ではなく、全MBへ確認し5メンバー以上の参加が必要ではないか。

【決議 55/2023】ESG 調整委員会（ESG CC）-更新

＜決議要約＞

ESG Coordinating Committee (ESG CC) – Update

- ISO TCSC全体でESG報告及び開示に関連する取り組みが増加していることを考慮。
- ESG領域の提案は投票前に、ESG CCリーダーシップと共有することで、ESG CCによる効果的な調整を促進し、TCSCでの活動の重複を避けることを目的としてTMBに推奨事項を提案するよう依頼。

＜背景＞

ESG CCのアップデート情報の共有。3月会合において、ESGの今後のワークについて議論し、3つのタスクグループの組成が決定。十分なリソースを動員できるようにするために、タスクグループのメンバーにESG CCに代表される委員会の専門家が参加できるようにすることが合意された。

- TG1 : ESG stakeholder engagement
- TG2 : Technical aspects of ESG
- TG3 : ESG resource hub

タスクグループのサポートのもと、ESG CCは、TMBに以下を提供予定。

1. 既存の規格の内容をベースにした上位の「原則」文書で、文書の性質により納期は未定だが、市場のニーズが緊急であることを認識する。
2. ISOの業務とESG CCの業務について、内外のステークホルダー向けに説明する「パンフレット」タイプのものを2～3ヶ月以内に発行する。
3. タイムスケールを確定した上で、ISO Resource HUBのビジネスプランと詳細な提案書を作成する。

【決議 55/2023】ESG 調整委員会 (ESG CC) -更新 (続き)

<決議要約 (再掲)>

ESG Coordinating Committee (ESG CC) – Update

- ISO TCSC全体でESG報告及び開示に関連する取り組みが増加していることを考慮。
- ESG領域の提案は投票前に、ESG CCリーダーシップと共有することで、ESG CCによる効果的な調整を促進し、TCSCでの活動の重複を避けることを目的としてTMBに推奨事項を提案するよう依頼。

<審議内容> 議題 5.4.2

- コーディネーションが鍵であることを念頭に活動すべき。
- もっとESG CCに参加するよう推奨すべき。もっとたくさんの関係者がいるはず。ESG CCもWPや年間活動計画を作成し報告すれば参加者が増える？ ESG CCもキャパビルを考えて、DEVCOなどともコラボすべき。
- いろいろなTCに様々なNPが提案され、協調されずに進んでおり、調整されないまま規格が開発されることに懸念。開発開始時に報告すべき。
- ESGは幅がとても広いので、既存TCに関連した規格を開発することを報告すべきとするならばよいが、調整までさせるのは要検討。
- Coordination & Coherenceに注目すべき。ブリスベンのWSを終日にして、Deep diveした方がよい。
- 途上国にすると本件をコンソーシアムにリードされると、シリアスConstraintsになることが懸念。Broadなセンスで議論がされていないのは困る。

ワンポイントメモ：組織名

一般的に以下のように分類。

- **TF**(Task Force): TMB自らがメンバー。短期間で活動。
- **CC**(Coordination Committee) : TC/SC議長がメンバー。
TC/SC間のコーディネーションが業務。一定期間活動。
- **SAG**(Strategic Advisory Group): TMBメンバー、MB、
専門家などが役割に応じて参加。限定された期間活動。

どのグループもTMBに報告する。

報告・討議事項 (決議なし)

5.3.4 合同TC (JTC) のためのISO/IEC合同タスクフォース

● 背景

JTC1に続く、ISO/IEC合同のTC設置提案（量子技術など）に対応するため、

2022年12月のTMB/SMB合同会議で、JTCのルールとプロセスを見直し、JTC1が政策提言を行う際に経験した困難な分野を調査するためにJTFを創設。今後、新JTC を設立する前に、JTC の設立と管理に関する一般原則を定義することに重点を置く。

フランス（IEC）と米（ISO）を共同議長とするJTFを設立。

各組織の代表者3～5名に限定。(IEC:英、印、日、独、伊、中。ISO:スイス、仏、韓、独)

<討議内容>

- SMBとTMBとして、同じ決議を出す必要あり。そのため、どちらがどちらへ、Concur（賛同を促す）ものではない。
- SMBは、(SMB/7908/R) が承認されたが、6/12に議論することになっている。10月のSMBまでにロードマップを完成することになっている。
- 議長：ここで目指す合同決議に向けたTMBからSMBへのレターは
 - ① IECとともに、JTCに進めたい。
 - ② BSIが提案したもの（含む関連書類）をNC/MB投票にかける。
 - ③ Coherenceの決定は、SMB/TMBとして合同の決議にする。
- NC/MB投票の結果と、本JTFの結果を踏まえて、結論を出すこととする。

11.1 次回以降TMB会合の日程、場所、議題

- 次回以降の会議等について

次回 第88回TMB会合@シドニー及びブリスベン（豪）

9月13～15日シドニー

事前会合、ホスト国議長等とのWS、前回会合から続くWS

9月19日 ブリスベン TMB会合

（ISO総会 18～22日ブリスベン）

次々回 第89回TMB会合@ケベック（カナダ）

2024年3月4日の週

事前会合、関連会合等

TMBジュネーブ会合中の関連会合

- TMB Coherence and coordination（統一と協調について）
 - TMBダッシュボード
 - 新TCにおける開発時間の向上のために
-
- TMB Coherence and coordination（統一と協調について）
 - ・ TCの乱立と内容の重複を防ぎ、統一性や協調に関する議論
 - ・ 物流の提案が複数提案されたため、具体的な議論と一般的な対応を議論。
 - ・ 9月会合に向けてTFを再開。今回の議論をまとめ再度プロセスを提示。コメント（プロセスやツールなど）を提出。
 - TMBダッシュボード：KPIの見直しを行うが、事務局の提案待ち。
 - ・ TMB自身のパフォーマンスをどう評価するか。例えば、TMBが設置した組織の数はデータ化すべきか。
 - ・ 規格開発に思ったより時間がかかっているのはどうするのか。規格数も問題だが、2022年より38%以上ページ数が増えている。スピードが落ちたのはキャパシティの問題か。コンセンサスを得るのが難しい案件に関しては、専門家があと4～5ヶ月伸ばして開発を希望。これは専門家のニーズを聞くということ（All voices heard）。
 - ・ コンセンサスを得るには信頼が必要。信頼はやはり対面でないと構築困難。やはりネットワーキングが重要。
 - ・ 国際幹事でE-learningを受講した率が低い。リマインドがない。時間が長すぎるという意見あり。TSP/NPを提出する際に、議長候補や国際幹事候補に受講を義務づけることを考えるべき。
 - 新TCにおける開発時間の向上のために：事務局提案待ち
 - ・ TMBがなるべく新規と既存のTCの重複を減らしスピードアップを図ってもその後の確認がない。18ヶ月以上経っても規格どころかSBPも規格提案さえないTCもあり、見直しが必要。

通信投票の決議

2023年第86回TMB会議以降～2023年第87回TMB会議まで

● TMB決議 16/2023 ～ TMB決議 35/2023

- 16/2023:サプライチェーンとロジスティクスの分野における一貫性に関する TMB タスクフォース
- 17/2023:スマートファーマーミングに関する戦略諮問グループ (SAG) の報告書
- 18/2023:気候変動調整委員会 (CCCC) の任務の更新
- 19/2023:ESG調整委員会 (ESG CC) のリーダーシップ
- 20/2023:ISO/TC 210 の名称及び業務範囲の変更
- 21/2023:新しいプロジェクト委員会の設置 - 国連持続可能な開発目標のマネジメントシステム
- 22/2023:ISO/TC 96 からの ISO 4301-1:1986 の復活と保持の要請
- 23/2023:持続可能なスポーツ ゲームを評価するためのガイダンスに関する SAC提案の割り当て
- 24/2023:ISO DMT 推奨事項 01/2022 – 附属書 C
- 25/2023:メタバーズに関する ISO/IEC 合同標準化評価グループ (JSEG) の設置
- 26/2023:IWA 42ネットゼロガイドライン
- 27/2023:ISO/TC 72/SC 5 の解散
- 28/2023:定期見直しに基づく ISO 20400:2017 持続可能な調達 — 手引 の確認
- 29/2023:ISO/TC 48/SC 3 の解散
- 30/2023:ANSI-ASN間の ISO/PC 305 持続可能な非下水道衛生システム のための幹事国ツィニング提携の承認
- 31/2023:専門委員会の再開 - ISO/TC 101, 連続運搬管理装置
- 32/2023:TC議長の任命 (2023年2月)
- 33/2023:ISO/TC 17下の新SC (SC 21) 鉄鋼産業における気候変動に関連する環境の設置
- 34/2023:ISO 639, 各言語及び言語グループ のためのメンテナンス機関 (MA) の承認
- 35/2023:TC議長の任命 (2023年3月)

2023年第86回TMB会議以降～2023年第87回TMB会議まで

● TMB決議 36/2023 ～ TMB決議 55/2023

- 36/2023:ISO/IEC 専門業務用指針第1部, ISO補足指針の附属書 SL 及び付録 1 の承認
- 37/2023:ISO/TC 34/SC 8 茶 の再割り当て
- 38/2023:ISO 19157-3 のための登録機関 (RA) の任命
- 39/2023:廃止投票への異議 (2023年 第1四半期)
- 40/2023:ISO/TC 232 教育及び学習サービス の再割り当て
- 41/2023:ISO/TC 282 水の再利用 の業務範囲の変更
- 42/2023:TC議長の任命 (2023年4月)
- 43/2023:TMB 2024年業務計画案の承認
- 44/2023:新業務についてのガイダンス – 更新
- 45/2023:L.D. アイカー賞受賞者による委員会ネットワークの設置
- 46/2023:リビングラボ フェーズ2 – 委員会の革新 の解散
- 47/2023:サプライチェーンと物流分野の一貫性に関するTMBタスクフォース – ギャップ分析と革新的物流に関する新しいTCの設置
- 48/2023:重要鉱物に関する戦略諮問グループ (SAG) の報告書
- 49/2023:リスク及び関連用語の概念に関するISO/IEC合同タスクフォース最終報告書と推奨事項
- 50/2023:包摂的用語に関する ISO/IEC 合同諮問グループの任務の延長
- 51/2023:スマートファーム調整委員会 (SFCC) のコンビーナの承認
- 52/2023:ISO/TC 22 自動車 の業務範囲の変更
- 53/2023:ISO/TC 117 工業用送風機 の業務範囲の変更
- 54/2023:ISO/TC 11 ボイラ及び圧力容器 の再開
- 55/2023: ESG 調整委員会 (ESG CC) -更新

参考 (ご紹介)

SPCG (Standardization Programme Coordination Group) について

- 2023年11月にSPCG対面会合をミラノで開催予定。
- 2023年1月下旬にWSをオンラインで開催。7月開催。次回は9月28日（予定）。

ISO/IEC/ITUにおいて、内容が重複しているTC（SG）設置の回避や、3機関が重複した規格開発の結果、機関毎にほぼ同じ内容の文書が発行されることを防ぐことなどを目的に、2019年夏に設置。（日本からは、当初よりTMB委員が参加。）

- ①新TC/SGの提案が機関から回覧された際の対応
- ②既存のTC/SG間で重複やその他問題が発生した際の対応
- ③SPCGの責任外の問題（著作権、有償無償問題など）は適宜関連部署へ
- ④SPCGは決定機関（Boards: ISO/TMB, IEC/SMB, ITU/TSAG）に報告
- ⑤SPCGメンバーは、文書へのアクセス権を持ち、規格開発のためにそれぞれの機関の適切な関係者に文書を送付（著作権等の遵守は必須）
- ⑥ 3組織で実行中の同じような案件のTC/SC/SGのリストの作成（Landscape文書）

どのように広報中？

右のイメージに到達したら、下にスクロール！



SPCG objectives

Coordination of new fields of technical activity:

- Review all new proposals for new fields of technical activity under consideration in, IEC, ISO and ITU's Telecommunication Standardization Sector (ITU-T)
- Identify early areas of common interest (and future challenges) in new standardization activities proposed in the three organizations
- Provide recommendations and mechanisms for coordination, collaboration and joint work to the respective technical boards (SMB, TMB, TSAG);

Official documents and operational information

SPCG Membership

[Download](#) ↓

SPCG terms of reference

[Download](#) ↓

SPCG Coordination IEC/ISO/ITU-T (Landscape of fields)

[Download](#) ↓

SPCG Key performance indicators

[Download](#) ↓

SPCG Effective Coordination Paper

[Download](#) ↓

SPCG AI/ML landscape

[Download](#) ↓

ランドスケープ文書！

Landscape of ISO/IEC/ITU-T existing Fields

Status: 6 December 2021

Field	ISO TCs ¹	IEC TCs ²	JTC 1/SCs ³	ITU-T SGs ⁴ , FGs	Dedicated and other related Coordination
	• TMB	• SMB	• SMB & TMB	• TSAG	• IEC SMB/ISO TMB/ITU-T TSAG Standardization Programme Coordination Group (SPCG) • World Standards Cooperation (WSC) • Global Standards Collaboration (GSC)
Access Networks, Transport Networks, Optical Networks	• ISO/TC 204 Intelligent transport systems	• IEC/TC 86 • IEC/TC 100 • IEC/SyC Communication Technologies & Architectures	• JTC 1/SC 6	• ITU-T SG15 • ITU-T SG9	• ITU/WMO/UNESCO IOC Joint Task Force to investigate the use of submarine telecommunications cables for ocean and climate monitoring and disaster warning
Accessibility, Human Factors, User Interfaces	• ISO/TC 37 • ISO/TC 159 • ISO/TC 173 • ISO/TC 314		• JTC 1/SC 35	• ITU-T SG2 • ITU-T SG9 • ITU-T SG16 • ITU-T SG20	• Joint Coordination Activity on Accessibility and Human factors (JCA-AHF)
Active Assisted Living	• ISO/TC 314	• IEC/SyC Active Assisted Living • IEC/TC 64 • IEC/TC 61		• ITU-T SG16	
Agriculture, smart farming	• ISO/TMBG/SAG on Smart Farming • ISO/TC 23	• IEC/SMB SEG on Biodigital Convergence	• JTC 1/SC 41 • JTC 1/SC 42	• ITU-T SG5 • ITU-T SG13 • ITU-T SG16 • ITU-T SG20	

表彰制度の活用

- ローレンス D アイカー賞
- ISO次世代賞
- ISO優秀賞
- 産業標準化事業表彰

参考 <https://www.iso.org/iso-awards.html>

IECには、ケルビン賞、エジソン賞、1906賞がある。

- ローレンス D アイカー賞：優秀なTCやSCの活動に対して、年に1つの委員会に対して授与される賞。自薦他薦問わず、4月末頃までに申請。受賞委員会は、総会で表彰される。
- ISO次世代賞：18～35歳までの標準化機関の職員に対して、持続可能性などを踏まえた標準化の経験に基づいて申請。毎年一人が受賞し、6ヶ月のISO中央事務局への出向の機会が与えられる。（4月末まで募集中）
- ISO優秀賞：前年に出版された規格に携わった専門家個人に与えられる賞。委員会の国際幹事国を通じて、TPM（ISO中央事務局）に提出する。人数などの制限無し。
- 産業標準化事業表彰（募集中）

<https://www.meti.go.jp/policy/economy/hyojun-kijun/keihatsu/hyosho/R05hyosho.html>

ウクライナ・ロシアについて（前回から変更なし）

＜事務局長からの連絡＞

- ロシア主導で行われる全会議は通知があるまで延期。ただし、投票用文書の発行、ISO/CSへの原案提出、CIBに関する決議など、その他の委員会活動はすべて許可。

＜ロシア主導が以下の場合＞

- CM（委員会マネジャー）
 - ・ 更なる通知まで全会議を延期。重要な決定はCIBで代替。
 - ・ ロシアの主導ではないWG、AGは通常通り会議を開催し、活動が可能。
- 議長
 1. CMもロシア：更なる通知まで全会議を延期。重要な決定はCIBで代替。
 2. CMはロシア以外：参加者は会議のセッション議長を選出可
 3. オプション2.が不可能な場合：ISO TPMによる会議の進行を検討。
- コンビーナ
 1. 会議は延期。但し、他のすべての活動は許可。
 2. プロジェクト期限厳守のために会議開催が不可欠と判断された場合：
 - 親委員会（TC/SC）議長（ロシア以外）が対応 または、
 - WGの専門家が、会議のセッションコンビーナを指名可能。
 3. オプション2.が不可能な場合、ISO TPMによる会議の進行を検討。

笑顔の・・・

- SMB議長とTMB議長



ありがとうございました

経済産業省～「標準化・認証」の紹介ページ

<https://www.meti.go.jp/policy/economy/hyojun-kijun/index.html>

日本産業標準調査会ホームページ

<https://www.jisc.go.jp/>